



<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawai/>

認められて育つ

校長 窪田 剛久

新型コロナウイルス感染症の減少傾向が続いています。行動制限のない夏休みを経て再開した9月でしたが、学校再開による感染拡大傾向もほとんど見られず、胸をなでおろしました。子ども達も心なしか、今までより元気に明るく学校生活を送っているように見えます。今年度は学校行事も、コロナ前とほぼ同じ規模で実施できています。実施方法にはまだ制限がございますが、保護者、地域の皆様におかれましてはどうぞご理解の程よろしくお願いいたします。



さてそうした中、つい先日5年生の三浦宿泊体験学習を無事に終えることができました。これで今年度の宿泊体験学習は全て行うことができましたこととなります。改めてご理解、ご協力いただいた保護者の皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。三浦から戻ってきた子ども達はそれぞれ自分の役割を立派に果たし、少し誇らしげに見えました。

本校では中期学校経営方針の中で、教育課程全体で育成を目指す資質・能力として「自分づくりに関する力」を掲げています。ではどうすれば子ども達は「自分づくりに関する力」を高めていけるのでしょうか。横浜市カリキュラム・マネジメント要領では「自分づくり教育（キャリア教育）」を次のように定義づけています。『「自分づくり教育（キャリア教育）」とは、「子どもたち一人ひとりが自分に自信をもち、社会や集団の中での自分の役割を意識し、今も将来もふるさと横浜に貢献していくことで、夢や希望、目標をもてる子どもを育成する教育」です。』つまり、「夢や希望、目標」をもつ子どもを育成するために、自信をもち、役割を意識することが大切であるということです。

私たちは子どもに自信をもたせるために「褒める」ことが大切であると考えることが多いと思います。結果に対し一定の評価をする、特に褒めることは子ども達の行動を価値づけるために大変重要な行為の一つでしょう。しかしそのためには保護者や教師といった、子ども達よりもキャリアステージが明らかに高い第三者が必要になってきます。これはいわゆる「褒めて（自信をもたせて）育てる」発想です。でも保護者や教師は、常に子どもと行動を共にしているわけではありません。

本校の中期学校経営方針では中期取組目標の中で「協働的な学びを通して自己有用感を高めるとともに、身の回りの人々を価値のある存在として尊重して過ごせるようにします。」とも言っています。ここで重要なのが「協働的な学び」です。宿泊体験学習を実施するにあたって、子ども達は1～2か月前から当日に向けての学習や活動をスタートさせています。日常の教科との関連を図っての学習、グループに分かれての調べ学習、役割分担とその役割を遂行するための準備・練習など、活動は多岐にわたります。そうした学習や活動を、仲間と協力しながら行っていくのです。仲間とのかかわりの中で、受け持った役割についてお互いに指摘し合ったり認め合ったりする営みが生まれてきます。それが「協働的な学び」であり、認め合うことで「自己有用感」が高まります。そこにあるのは「褒めて（自信をもたせて）育てる」発想ではなく「認められて（自信をもって）育つ」発想です。結果に対する評価は過ぎてしましますが、活動を継続しているなかで生まれる認め合いは、子どもの自信を強化し、持続させる効果が期待できます。自身を認め、評価してくれる仲間はずっと身近にいるからです。

9月には「長縄チャレンジ」「あいさつ週間」などが行われ、「音楽会」にむけた練習も始まっています。こうした行事を通して、子ども達がお互いに認め合い、自信をもって成長していけるよう、私達はカリキュラムを工夫していきます。今後とも川井小学校の教育活動に、ご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。